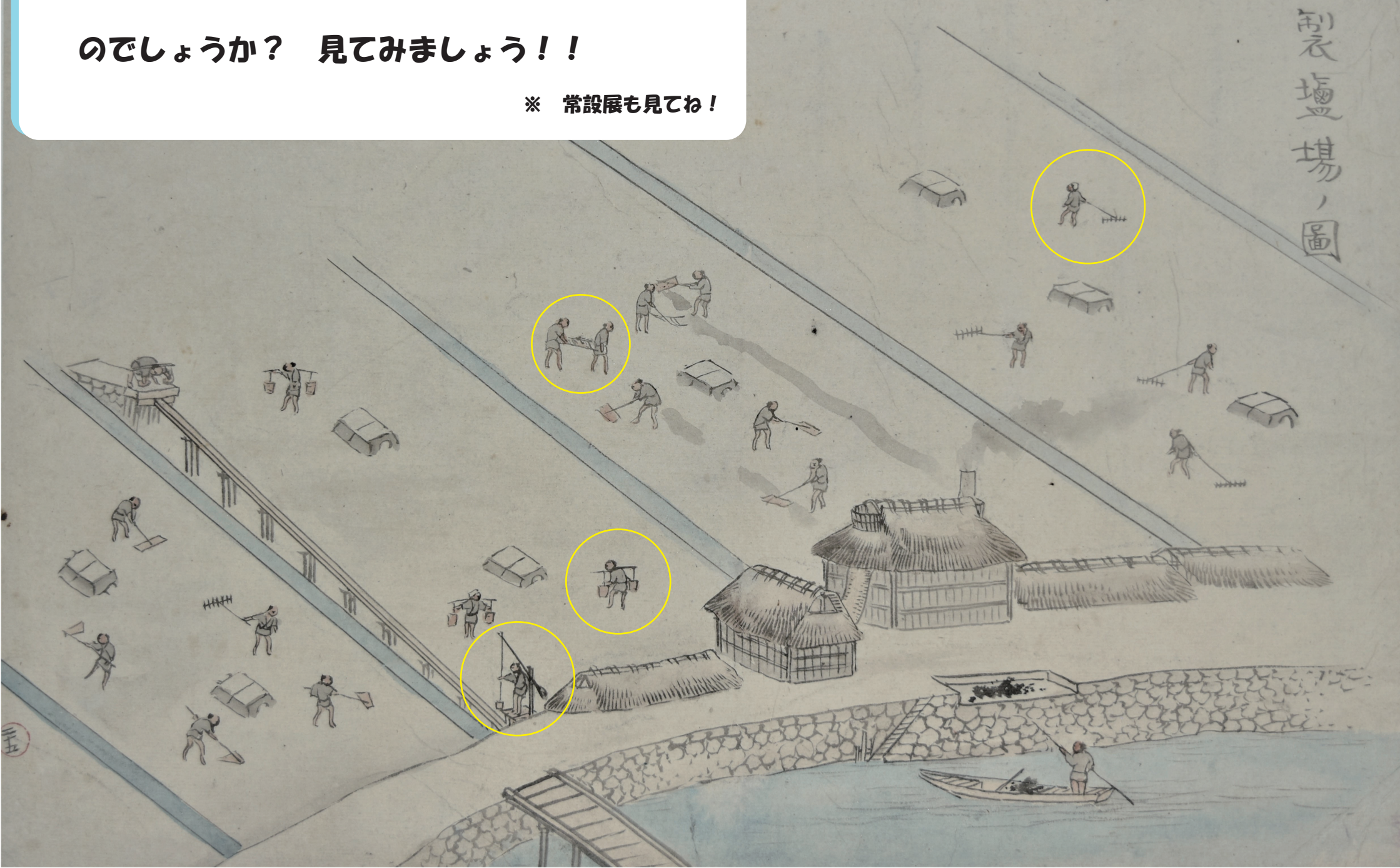


○で囲んだ人たちはどのような作業をしている
のでしょうか？ 見てみましょう！！

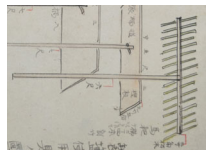
※ 常設展も見てね！



『製塩図解』にみる塩田での作業いろいろ



- 1 ^{たけぐし}竹櫛のついた^{まぐわ}万鋤(馬鋤)を用いて、塩田表面の砂を均一にするとともに、
^{もうさいかんげんしょう}毛細管現象を促す(砂の乾燥を早める)ための引^ひ(曳)き浜と呼ばれる作業
をおこなっています。



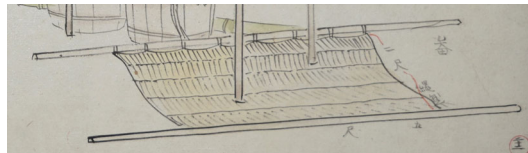
万鋤(まぐわ)



- 2 集めた^{まきすな}撒砂を^{モッコ}畚にのせて^{ぬい}沼井に入れています。このような作業をするのは、
^{はまもち}浜持^{はまこ}浜子と呼ばれる女性または^{ろうようしゃ}老幼者の役目でした。



沼井(ぬい)



畚(モッコ)



- 3 ^{はまみぞ}浜男が^{にな}浜溝で担い^{おけ}桶に海水を汲み、肩にかついで運んでいます。
これは、水揚げとよばれる作業です。海水は^{ぬい}沼井に注がれ、濃厚な海水が
沼井横の下穴にしたたり落ち、^{かんすい}鹹水ができます。



浜溝(はまみぞ) 塩田の両脇にある溝のこと



- 4 はねつるべを用いて^{かんすい}鹹水を土手に上げています。鹹水は土手上の小屋
に設けられた水槽に保管され、やがて^{かまや}釜屋にて^{せんごう}煎熬(鹹水を煮詰めて
塩を得る作業のこと)過程に入ります。
塩田の傍には、鹹水を効率的に集めるための樋が設置されています。



塩田横に設けられた樋